

2017年3月期 決算説明会

補足資料

～中期経営計画「New Challenge 2016」の結果～

稲畑産業株式会社

2017年5月31日

目次

1. 「New Challenge 2016」目標	・・・P3-4
2. 「New Challenge 2016」目標との差異	・・・P5-6
3. 事業環境	・・・P7-8
4. セグメント別 中期計画目標との差異	・・・P9-13
5. 注力分野別 中期計画目標との差異	・・・P14-16
6. 海外事業の更なる拡大と深化 メキシコ・フィリピン工場	・・・P17-18
7. 投資実績累計	・・・P19
8. ガバナンスの強化	・・・P20-21
9. グローバル人財の継続的な育成	・・・P22
10. 1株当たりの当期純利益推移 (EPS)	・・・P23
11. 樹脂コンパウンドの年間生産能力	・・・P24
12. 会社概要	・・・P25

中期経営計画目標(2017年3月期)

売上高	: 6,200億円
営業利益	: 125億円
経常利益	: 135億円
純利益	: 100億円
ROE	: 8.2%
ネットD/Eレシオ	: 0.45倍以下(※)
自己資本比率	: 38.0%
想定為替レート	: 1USD=100円

(※) ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本

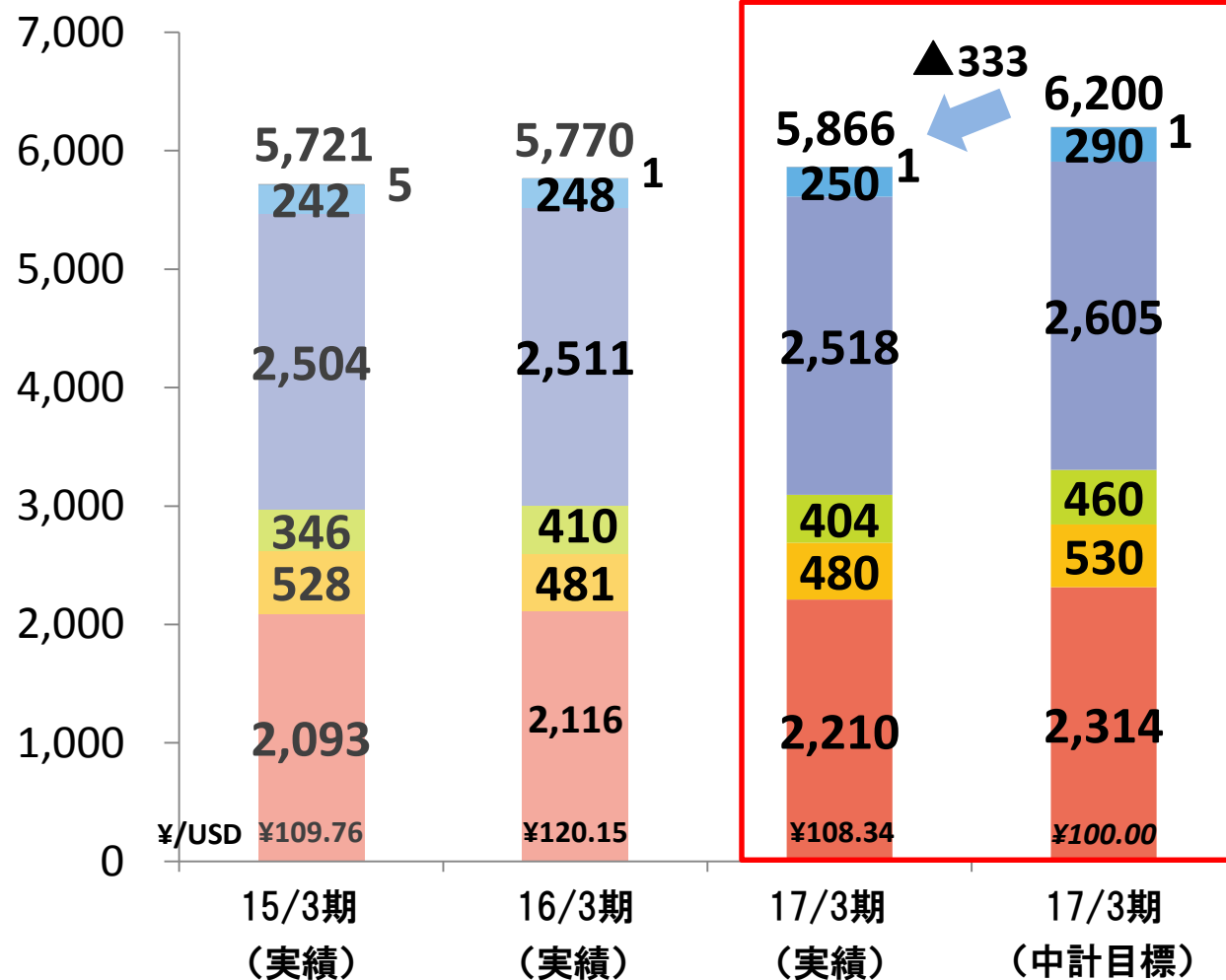
「New Challenge 2016」 6つの重点施策

1. 海外事業の更なる拡大と深化
2. 成長が見込める市場・未開拓分野への注力
3. グローバル経営のインフラ整備・拡充
4. 将来の成長に向けた投資の実施
5. 資金効率・資産効率の更なる追求と財務体質の強化
6. グローバル人財の継続的な育成

「New Challenge 2016」 連結売上高 目標との差異

【売上高】

(億円)

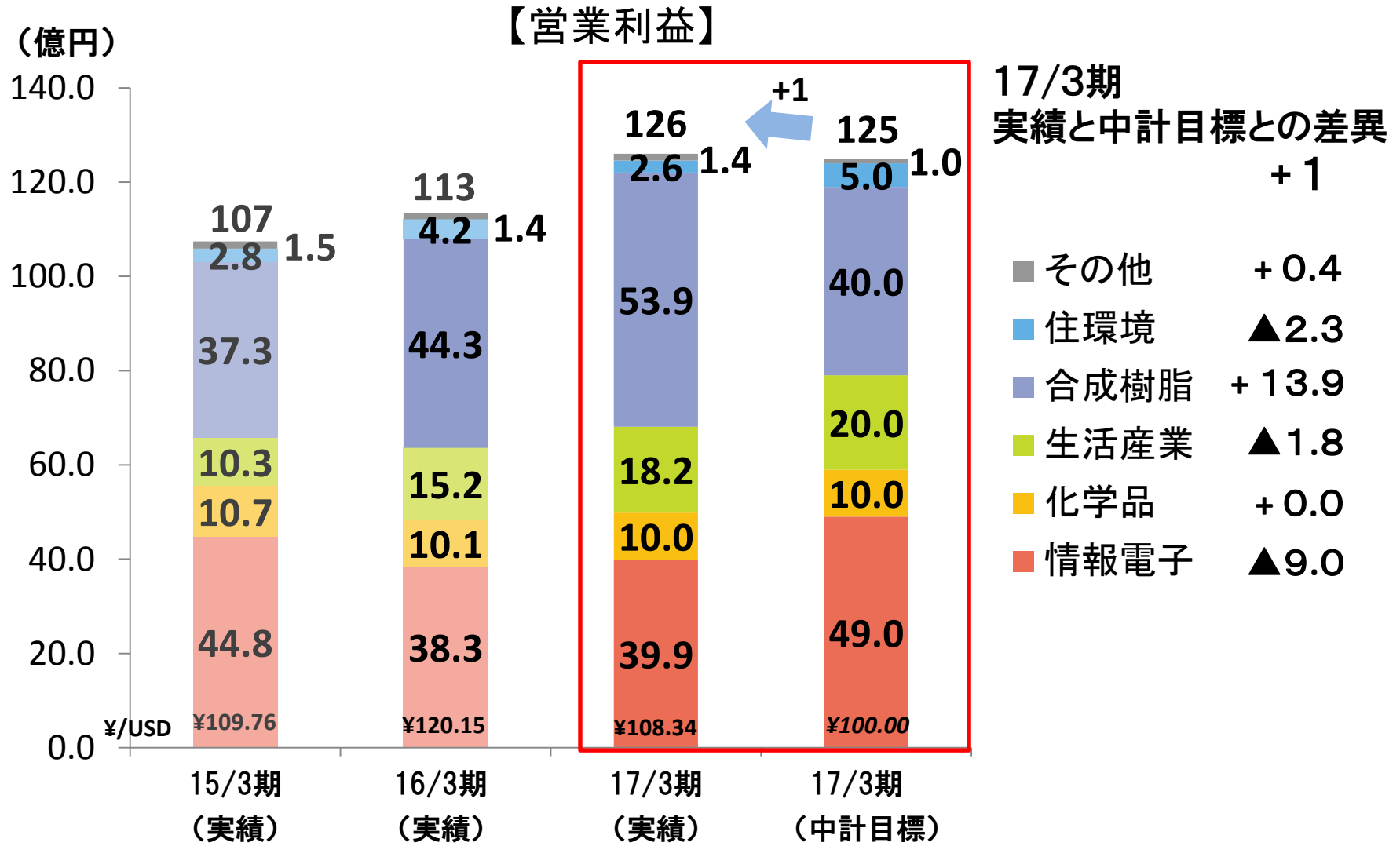


17/3期
実績と中計目標との差異

■ その他	0
■ 住環境	▲39
■ 合成樹脂	▲86
■ 生活産業	▲55
■ 化学品	▲49
■ 情報電子	▲103

(注) 17/3期より、従来「その他」に区分していたクレーン関連事業を「情報電子事業」に区分しました。
16/3期(実績)、17/3期(中計目標)についても、変更後の区分に基づいて作成しております。

「New Challenge 2016」 連結営業利益 目標との差異

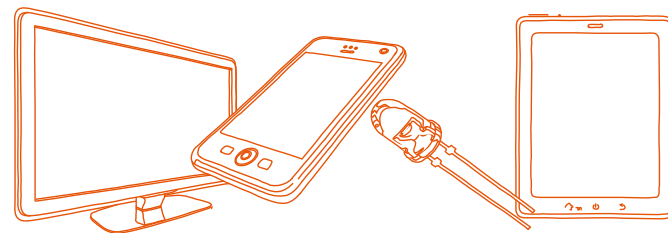


(注) 17/3期より、従来「その他」に区分していたクレーン関連事業を「情報電子事業」に区分しました。
16/3期(実績)、17/3期(中計目標)についても、変更後の区分に基づいて作成しております。

◆ 液晶パネルのマーケット

	2016年度 実績	前年比	2017年度 見通し	前年比	
TVセット	229百万台	98.5%	230百万台	100.4%	
スマホ	14.2億台	105%	14.8億台	104%	(当社推定)

- ・液晶パネルの需給が改善し、パネル単価が上昇
- ・しかし、2018年にかけて中国パネルメーカーの生産能力増強が続き、再び供給過剰へ ⇒ 中長期では弱含みを想定
- ・有機ELは、中小型の高品位モデルで液晶からのシフトが続くが、面積ベースでの市場シェアは限定的



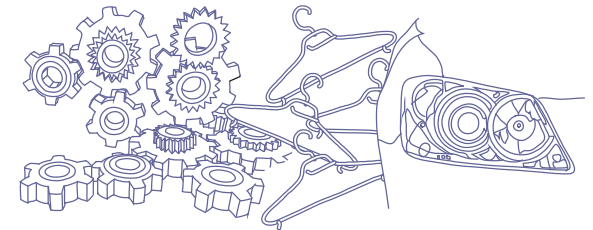
◆ 合成樹脂のマーケット(国内)

- ・ ナフサ価格の下落による、樹脂単価の下落

ナフサ価格	2015年度平均	2016年度平均	2017年1Q
	43,000円弱/kl	⇒ 35,000円弱/kl	41,800円/kl

- ・ しかし、ナフサ価格の下落は底を打った感があり、樹脂単価は足元、上昇傾向。今後、大幅な単価下落はないことを想定
- ・ 自動車市場は、2016年の国内生産は920万台(対前年比 微減)
中国・米国市場は好調、東南アジアは復調気味
- ・ OA市場は海外への生産移管が進んでおり
国内市場の伸長は期待できず

→ 海外拡販へ

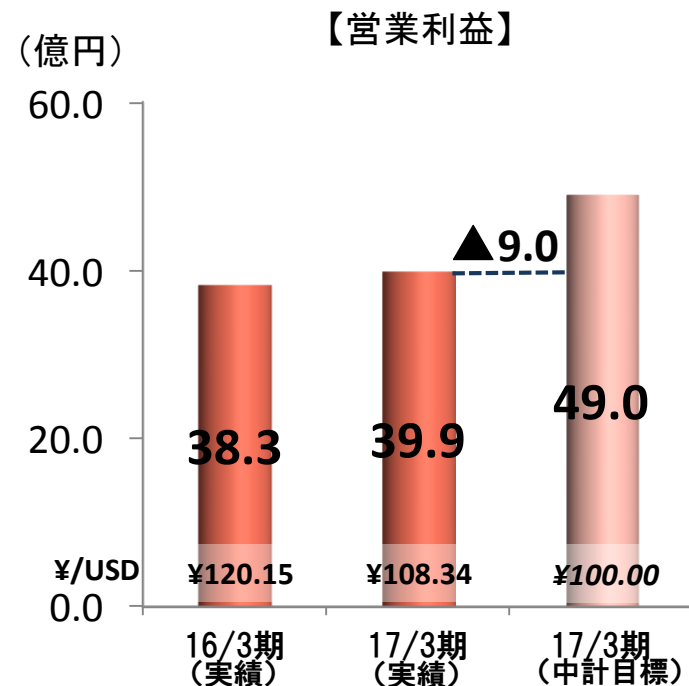
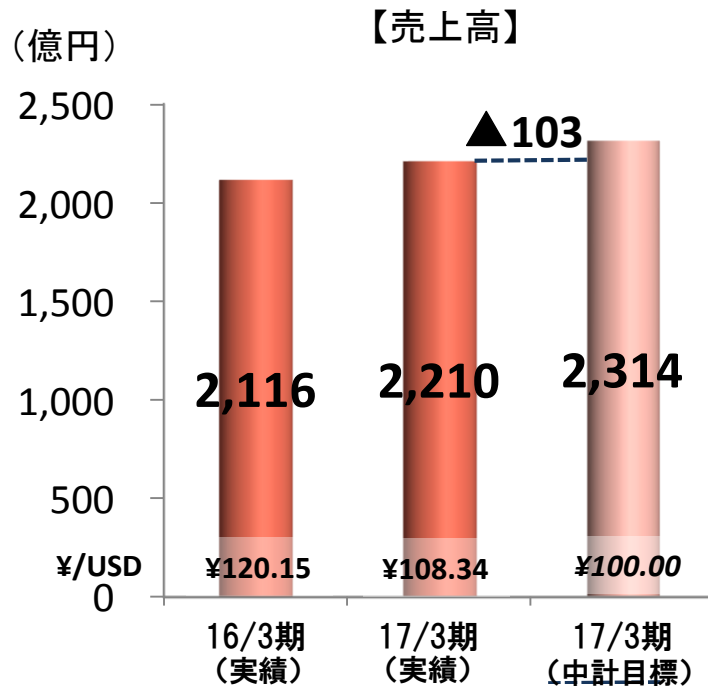


「New Challenge 2016」 目標との差異

① 情報電子セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期実績と中計目標の差異 売上高 ▲103億円 営業利益 ▲9.0億円

- ✓ 液晶関連は計画策定時の想定に届かず
但し、足元では中国パネルメーカー向けに偏光板の販売が回復
- ✓ 環境・エネルギー関連では、欧州において太陽光発電部材の販売が大きく伸びる。リチウムイオン電池は進捗が遅れ、今後期待
- ✓ 省電力サーバーやバイオマス発電などは来期以降に持ち越し

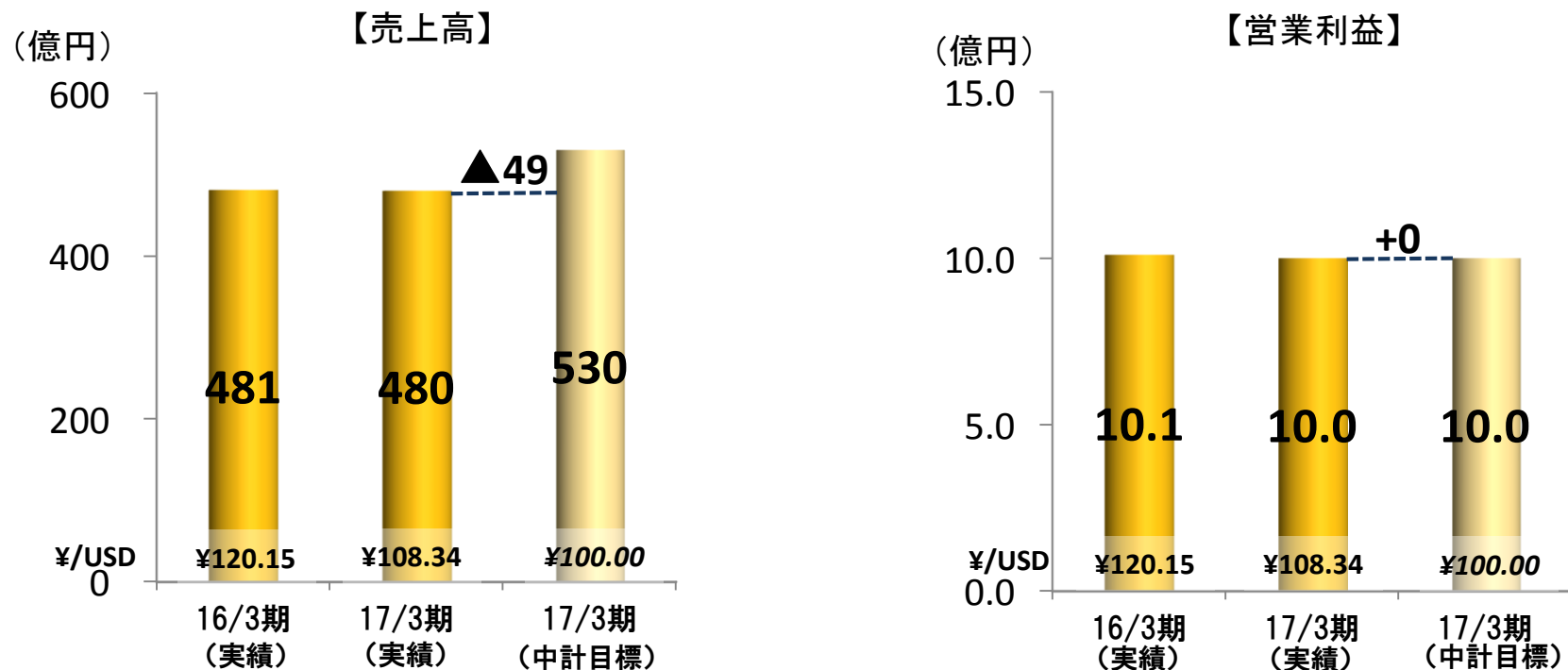


「New Challenge 2016」 目標との差異

② 化学品セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期実績と中計目標の差異 売上高 ▲49億円 営業利益 +0

- ✓ 売上高は未達だが、営業利益は計画値を達成
- ✓ 自動車関連や中国での塗料関連のビジネスが順調に拡大
- ✓ 将来に向け、放熱材料の拡大に向け布石

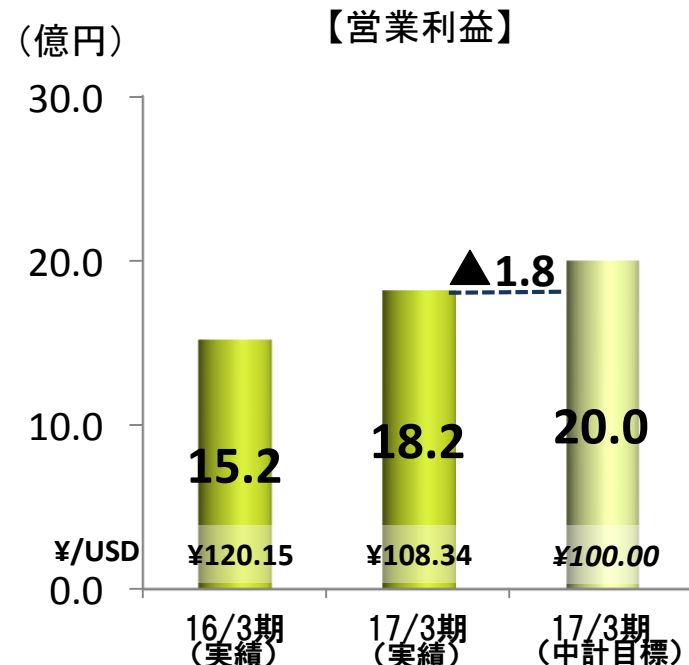
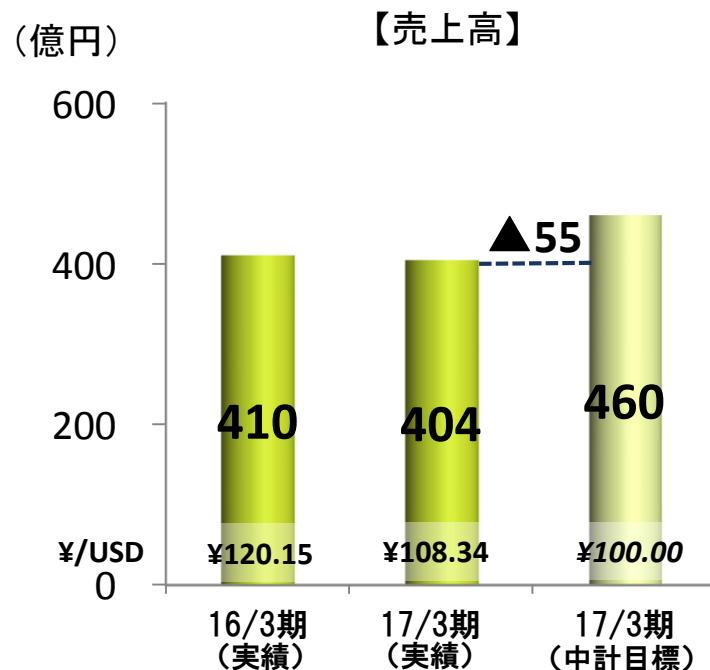


「New Challenge 2016」 目標との差異

③ 生活産業セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期実績と中計目標の差異 売上高 ▲55億円 営業利益 ▲1.8億円

- ✓ 医薬関連では、利益率の高い新薬用の原料が好調
- ✓ 欧州医薬関連子会社が利益面で苦戦するも、最終年度にリストラ効果で損益改善
- ✓ 食品は、国内子会社において水産品(エビ等)の販売が順調に拡大
- ✓ ブルーベリー農園など将来に向けた農業ビジネスをスタート

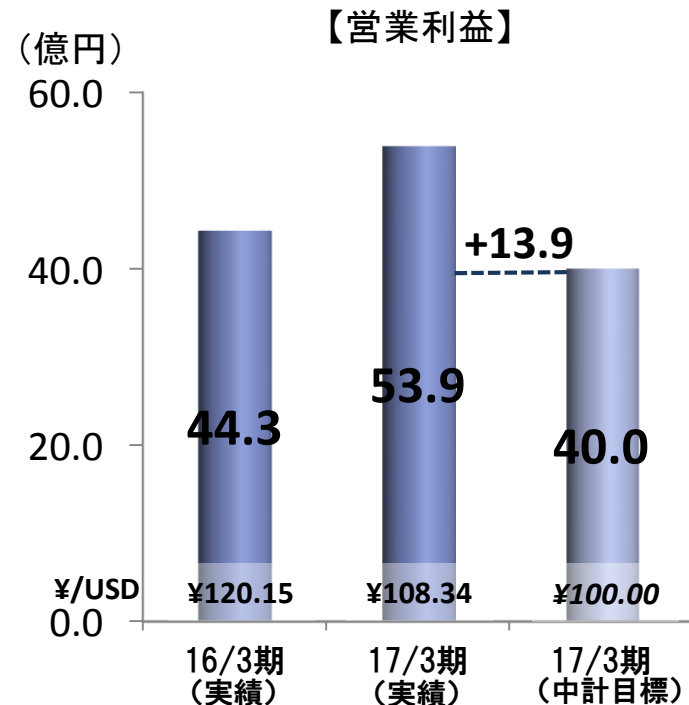
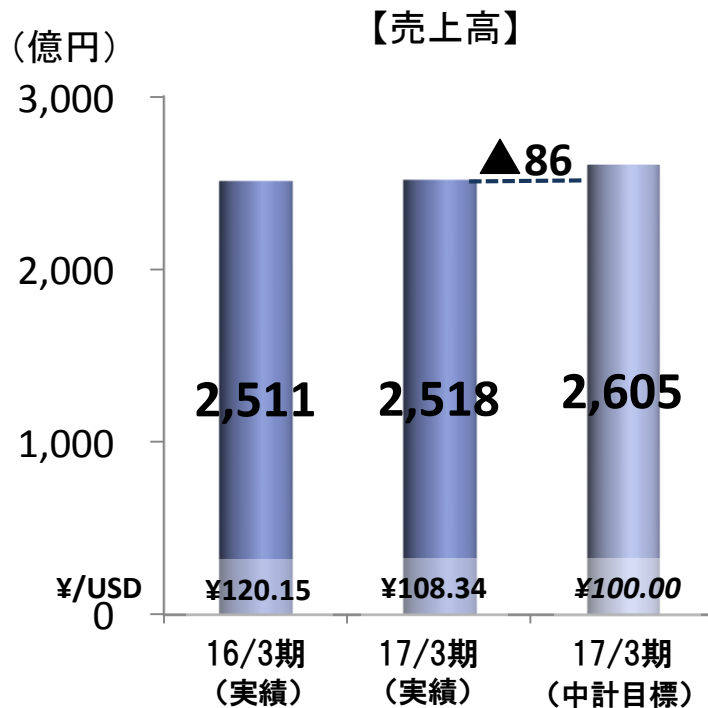


「New Challenge 2016」 目標との差異

④ 合成樹脂セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期実績と中計目標の差異 売上高 ▲86億円 営業利益 +13.9億円

- ✓ 原油安(※)による販売単価下落の影響が大きく、売上高は目標に届かず
- ✓ 自動車関連は概ね好調、特にグローバルユーザー向けの販売が伸びる
- ✓ フィルム関連国内子会社が、原料安の影響もあり利益面で貢献

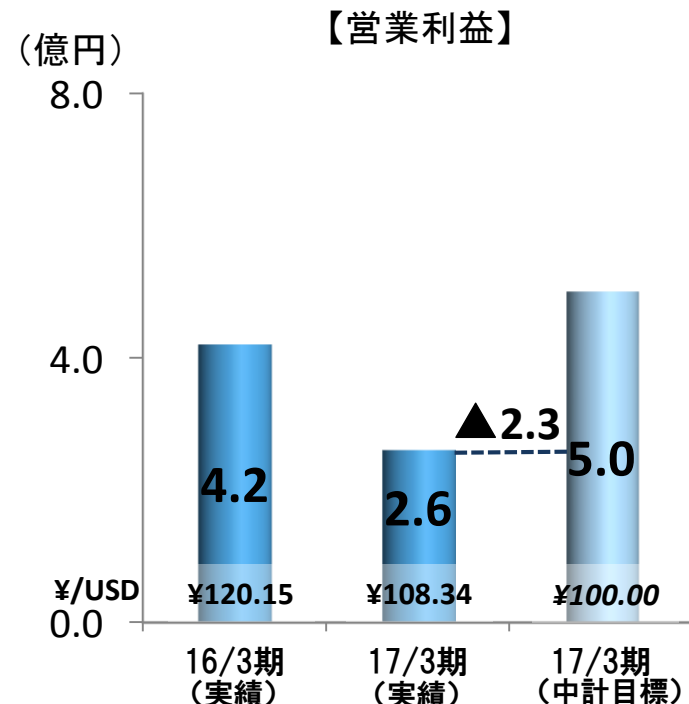
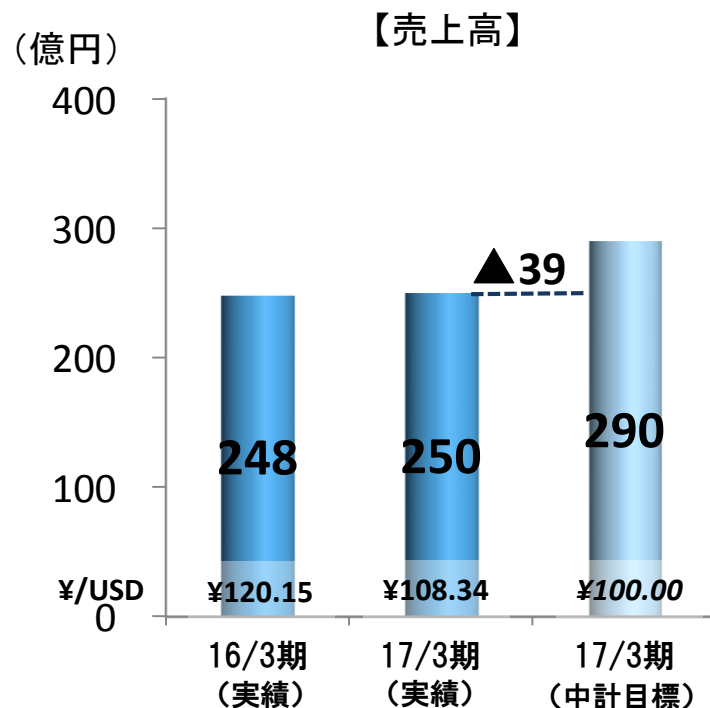


「New Challenge 2016」 目標との差異

⑤ 住環境セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期実績と中計目標の差異 売上高 ▲39億円 営業利益 ▲2.3億円

- ✓ 住宅建材関連において、建材メーカー向け資材販売や海外販売が低調
利益面で苦戦
- ✓ 発電用木材チップの販売など進捗が遅れる

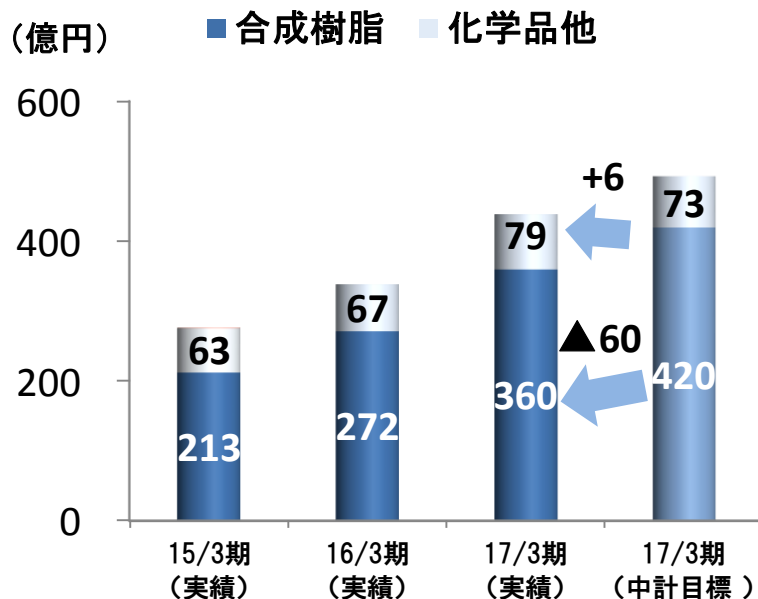


「New Challenge 2016」 目標との差異 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

自動車分野への取り組み

- ◆ 合成樹脂は、販売単価下落の影響が大きく、売上高目標未達だが、
商社ビジネスは、コンパウンド事業を武器に順調に拡大
- ◆ 化学品は、タイヤ、ブレーキ向け添加剤など想定を上回る進捗

◆ 主な自動車分野の売上高



■ 17/3期実績と中計目標の差異 (億円)
合成樹脂 ▲60 化学品他 +6

【主要要因】

- (+) 中国での日系・非日系向け販売の伸長
- (-) 販売単価の下落
- (-) メキシコ コンパウンド事業の遅れ

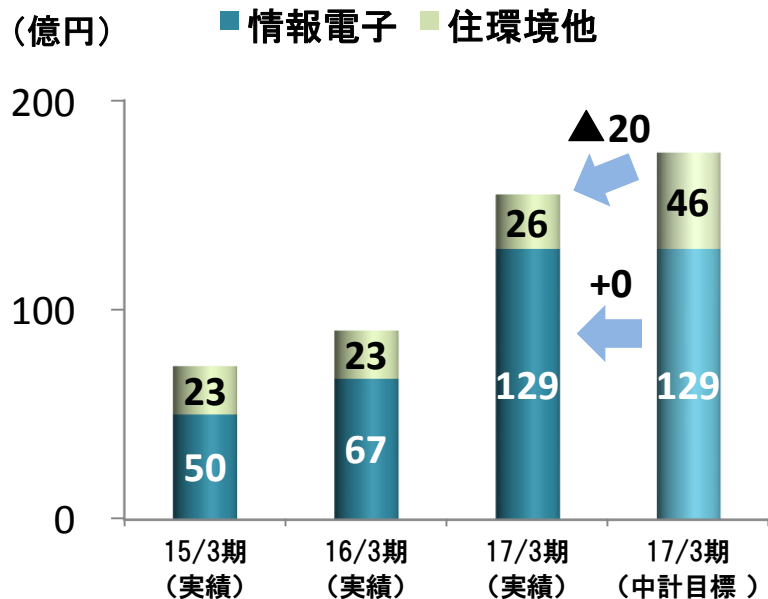
※ 売上高は主な自動車分野の単純合算値。

「New Challenge 2016」 目標との差異 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

環境・エネルギー分野への取り組み

- ◆ 情報電子は、欧州・中東地域で太陽電池部材の販売が伸長したが、リチウムイオン電池が伸び悩み、売上高合計は想定通りとなる
- ◆ 住環境では、木質チップが伸びず目標未達

◆ 主な環境・エネルギー分野の売上高



■ 17/3期実績と中計目標の差異 (億円)
情報電子 +0 住環境他 ▲20

【主な要因】

- (+) 欧米の太陽光発電市場の活況
- (-) 発電用木質チップ販売の遅れ(住環境)

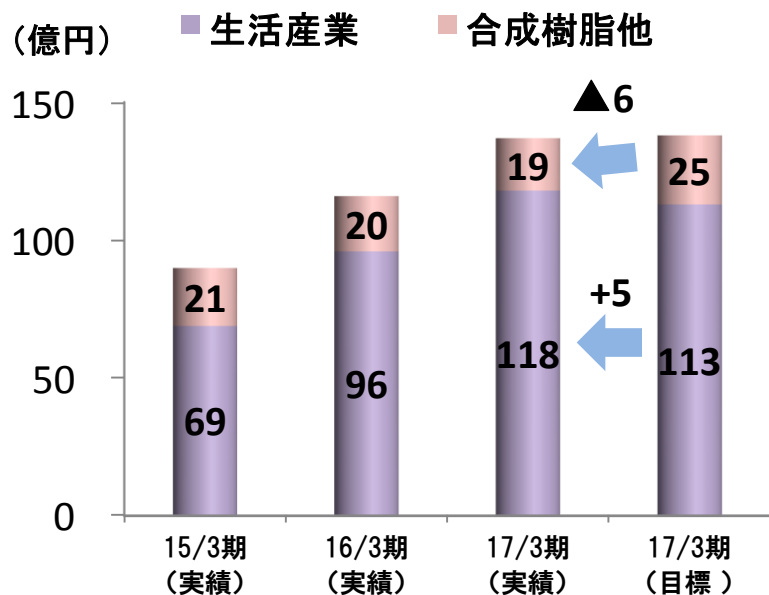
※ 売上高は主な環境・エネルギー分野の単純合算値。

「New Challenge 2016」 目標との差異 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

ライフサイエンス分野への取り組み

- ◆ 生活産業は、新薬原料が売上高目標を上回る
- ◆ フランス医薬子会社のリストラ進み損益は回復基調

◆ 主なライフサイエンス分野の売上高



■ 17/3期実績と中計目標の差異 (億円)
生活産業 +5 合成樹脂他 ▲6

【主な要因】

- (+) 新薬原料販売の好調
- (+) フランス医薬子会社の損益改善
- (-) ジェネリック医薬品市場の伸び悩み

※ 売上高は主なライフサイエンス分野の単純合算値。

「New Challenge 2016」 海外事業の更なる拡大と深化

メキシコの日系初のエンブラ・コンパウンド製造拠点（自動車向け）

2013年11月に稼働開始、2014年9月より量産を開始



販売の伸びは遅れ気味ながら、新規案件の試作依頼は活発
今後、着実に業績の拡大を見込む

2017年3月期 販売実績 4,577トン

中長期の市場拡大を視野に生産能力を15,000トンに増強
2018年3月期 年8,500トンの販売を計画



会社名	: IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.
生産能力	: 15,000トン/年
所在地	: メキシコ中央部グアナフアト州シラオ

「New Challenge 2016」 海外事業の更なる拡大と深化

フィリピンの樹脂コンパウンド製造拠点(OA向け)

2014年7月より商業生産を開始

2015年モデルのプリンターに採用され量産化スタート



主要OA顧客向けが伸びず、新規案件も採用が後ずれして苦戦
2017年3月期 販売実績 5,000トン

商社IKと一体で案件獲得に注力

2018年3月期 年7,750トンの販売を目指す



会社名 : IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力 : 10,800トン/年
所在地 : フィリピン ラグナ州

中計3年間の投資枠を100億円に設定

2017年3月期までの
3カ年 投資実績累計 122億円

【主な投資案件】

コンパウンド事業関連	21.6億円
インドネシア物流倉庫	19.5億円
インフレ事業関連	10.9億円
システム投資	9.8億円

ガバナンス強化に向けて、以下の施策を実施

1. 指名・報酬委員会(任意)の設置

経営幹部の選任、取締役・監査役候補の指名、
取締役の報酬決定にあたり、客観性、公正性、透明性を確保

・現構成員： 社内取締役 1名(議長)、独立社外取締役 2名

・2016年3月期

開催実績 2回

・2017年3月期

開催実績 4回

2. 取締役会評価（自己評価）の実施

取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的

2017年3月期

- ・2016年11月 全取締役・監査役にアンケート形式で実施
- ・2017年4月 分析・評価結果を書面で開示

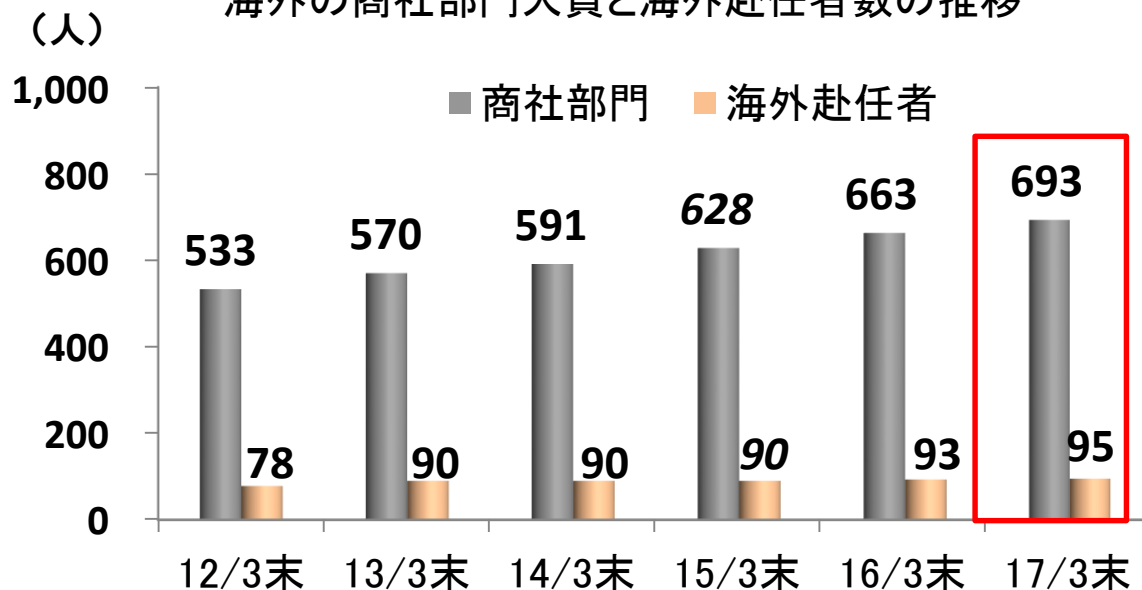
2018年3月期は第三者評価を実施する予定

「New Challenge 2016」 グローバル人財の継続的な育成

人員の充実と共に、質的な面での強化、育成を加速

- ✓ 日本を含めたナショナルスタッフ同士の交流促進
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催
2017年5月に東京で開催(ナショナルスタッフ 6名参加)
「目指す姿(Vision)」、「価値観(IK Values)」の共有を目指す

海外の商社部門人員と海外赴任者数の推移

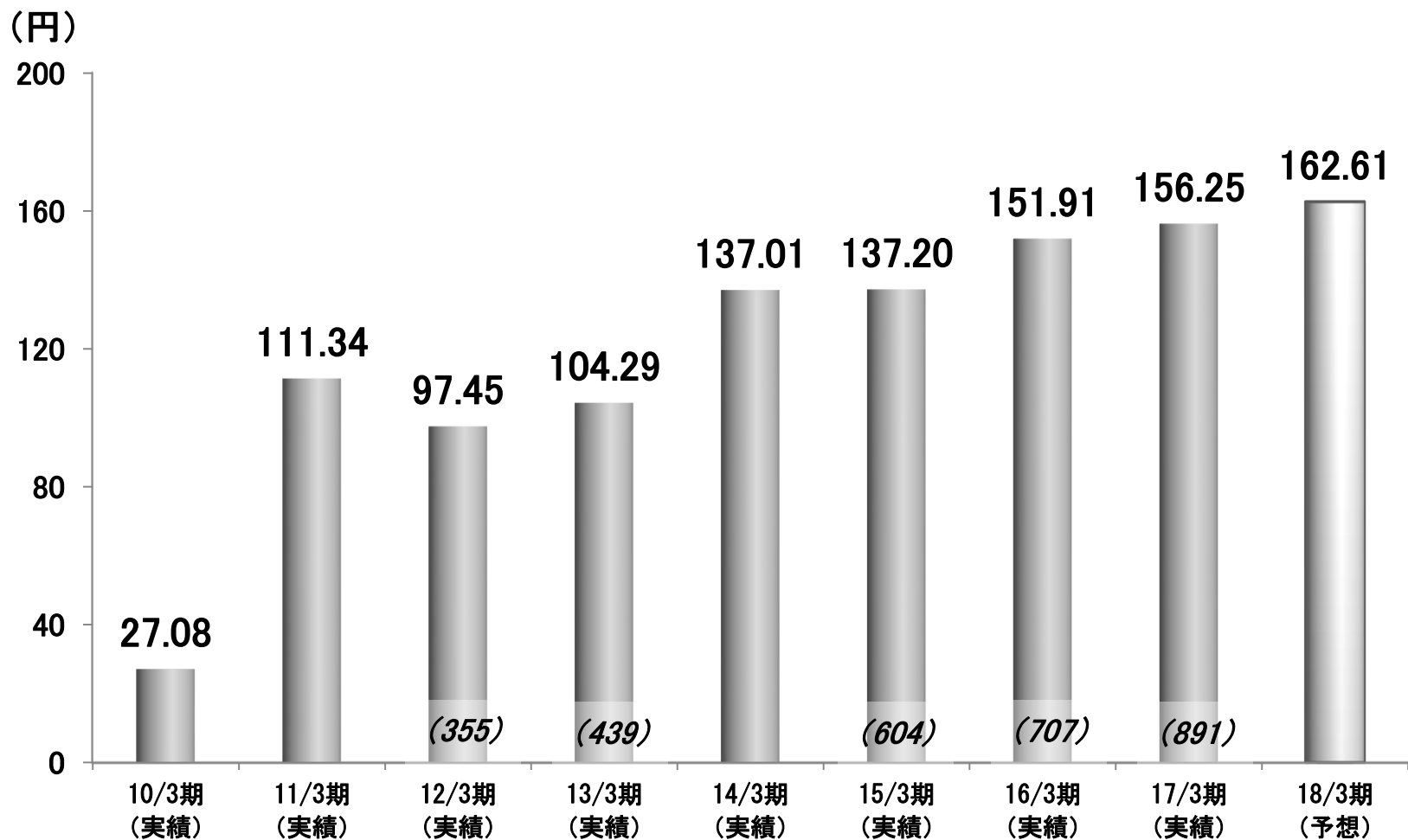


(注)各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数



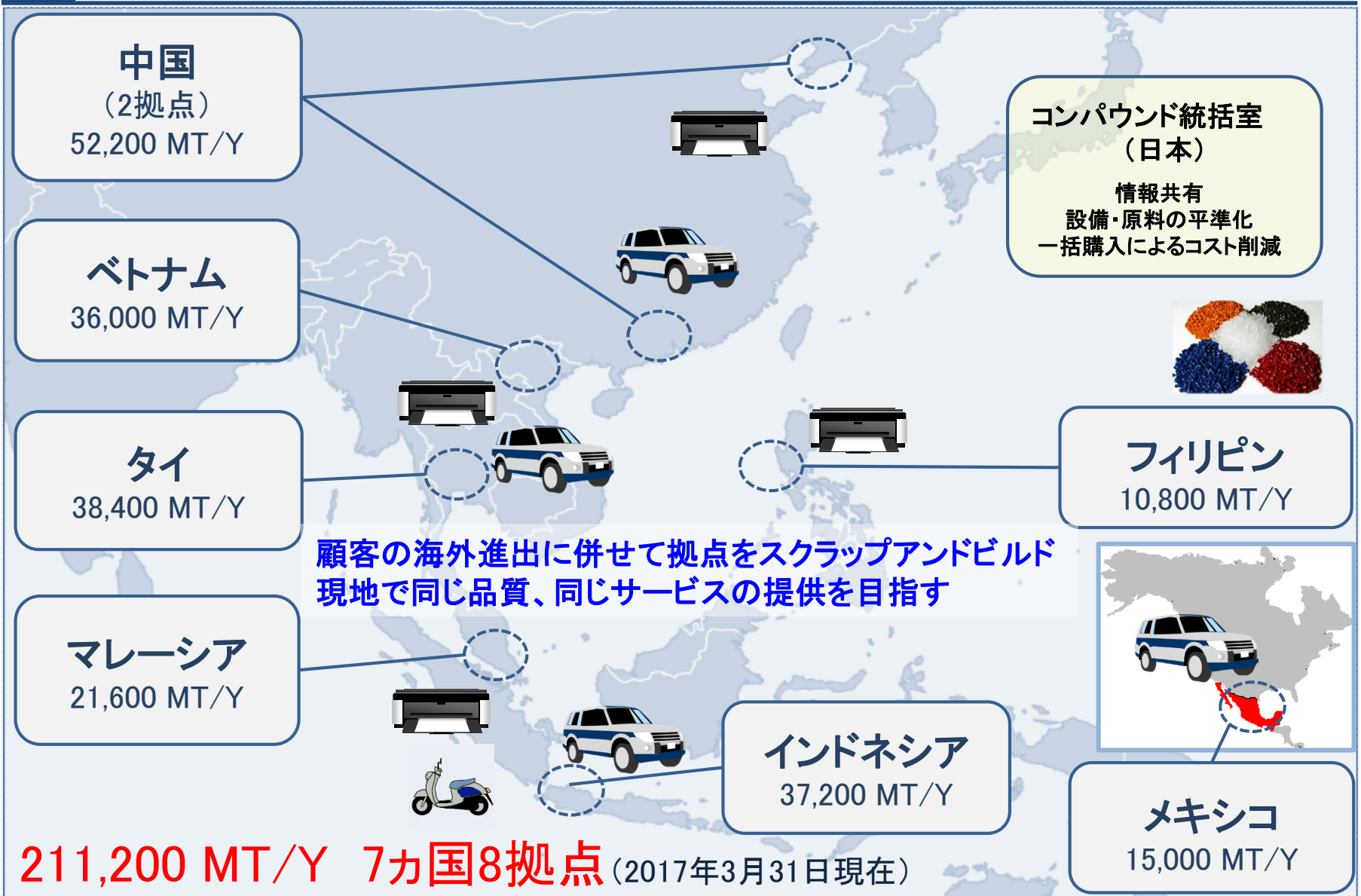
【稲畑ベトナムの社員と役員】

1株当たりの当期純利益推移(EPS)



(注) 棒グラフ下部のカッコ()内は、期中に実施した自己株式取得額(百万円)

樹脂コンパウンドの年間生産能力(ワールドワイド)



会社概要

会社名	稲畑産業株式会社	事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
創業	1890年10月1日	上場市場	東証一部
設立	1918年6月10日	証券コード	8098
資本金	93億6千4百万円	単元株式数	100株
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎	株主数	5,247名
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場一丁目 15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋本町二 丁目8番2号	大株主の状 況(持株比率 上位3株主と 持株比率)	住友化学株式会社 22.4% 日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口)5.3 % JP MORGAN CHASE BANK 380684 4.6%
従業員数	621名〔連結3,827名〕		
発行可能 株式総数	200,000,000株		
発行済株 式の総数	63,499,227株		

(注)当社保有の自己株式数(1,809,985株)については、
持ち株比率の計算から除外しています。

(2017年3月31日現在)

□ IRに関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 IR企画部

TEL 050-3684-4007 FAX 03-3639-6410

E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。